

津田尚輝氏のご功績

氏名又は 団体名称	つだ なおてる 津田 尚輝	年齢	72
所 属	元 株式会社アイ・エイチ・アイ マリンユナイテッド代表取締役社長 元 一般財団法人日本船舶技術研究協会理事長 元 一般社団法人日本船舶海洋工学会会長		
功 績 の 概 要			
<p>1. 日本船舶技術研究協会の設立・国際基準等策定の主導</p> <p>我が国海事産業の国際競争力の源泉は、海運・造船・舶用の各産業がスクラムを組んだ、一歩先を行くプロアクティブな国際基準づくりにあるとの考えの基、官民が一体となったプラットフォームの場をつくるべく、財団法人 日本船舶技術研究協会（現 一般財団法人）設立のために業界調整等に奔走した。また、平成17年設立とともに初代理事長に就任し、多くの国際基準策定に貢献した。官民一体となった戦略的な国際基準作りへの道筋をつけたという観点から、津田氏が我が国海事産業に果たした役割は極めて大きい。</p> <p>氏の協会在籍時に果たした特記すべき成果は以下の通り。</p> <p>(1) 国際海事機関（IMO）における、国際海運からの二酸化炭素排出削減にかかる国際基準策定につき、同協会にて委員会を立ち上げ国内関係者の意見を調整するとともに、国際業界団体との調整を主導した。これにより、我が国主導での基準策定に大きく貢献した。</p> <p>(2) シップリサイクル条約の発効に備え、ガイドライン策定、現存船インベントリ作成、リサイクルヤード等の検討を主導した。また、条約採択にあわせ、いち早く有害物質リスト作成のための新組織を協会内に立ち上げ、早期執行に向けた取り組みを行った。</p> <p>(3) アスベストにかかる問題が表面化した際、急遽対策チームを立ち上げ、船舶の解体・改修に伴うアスベスト飛散の防止対策等、アスベストの取扱いに関するマニュアルを作成した。平成19年にはその功績を評価され国土交通省海事局長から協会が表彰された。</p> <p>2. 日本の造船業躍進を牽引</p> <p>昭和39年（1964年）から41年間にわたり、石川島播磨重工業株式会社（現 ジャパン・マリン・ユナイテッド）にて造船に従事し、現場での徹底的な生産性向上、社長として経営の陣頭指揮を行うことにより同社を世界トップクラスの造船企業として発展させるとともに、高度成長期から現在における我が国造船業の躍進・競争力強化に大きく貢献した。</p> <p>また、経営に忙殺される中、平成15年からは、我が国造船業全体の対外戦略を担うポストである日本造船工業会 企画委員会委員長に就任し、造船業の進むべき道筋を示すなど業界の発展にも貢献した。</p>			